

桑のふるさと再生プロジェクト

取組に至る背景・事業の目的

池田町では、養蚕業の衰退に伴う遊休桑園の増加により景観の悪化や獣害の増加などの問題が顕在化していた。このため、当時健康食品として町のハーブセンターが開発した「桑茶」に着目し、不足していた原材料の桑葉の生産量の拡大を図るとともに、美しい桑畑の景観の再生を目指す。

事業内容

- 耕作放棄桑園の再生（6～9月）
地域住民を巻き込みながら、基盤整備を実施
- 桑植樹イベントの開催（2回）
モデル桑畑への桑植樹を町民参加型で実施
- 桑の教室（4回）
桑の歴史的背景や新たな活用法を学習する講座を開催
- 桑栽培の先進地視察（8月）
信州大学繊維学部の桑葉試験ほ場を見学



【植栽イベントの告知】

事業効果

- 桑葉の担い手確保
当初は桑畑を整備することに地域の十分な理解が得られない時期もあったが、「桑植樹イベント」、「桑の教室」などの取組を通じて理解・共感が進んだ。今回の取組により、ボランティア会員の増加にもつながり、将来の担い手確保が期待される。
(ボランティア会員数：15人→32人 (+17人))
- 桑葉の生産量の増加
新たに桑畑の基盤整備を実施し、3年後の収穫期には将来の需要をまかなう十分な桑葉の生産量確保が見込まれる。
(基盤整備面積：900㎡)

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・植栽したばかりの桑の手入れや鳥獣対策の検討を重ねながら、ボランティアとともに畑の維持管理を行った。
- ・「桑の教室」について、小・中学生にも参加してもらえるよう開催場所等を工夫した。
- ・桑の栽培手順のマニュアル化など、より多くの人が桑の栽培に携われる仕組みづくりに取り組む。
- ・桑の葉だけでなく、実、枝、根を漢方薬として利用する方法も模索していく。

【評価のポイント】

かつては豊富にあった地域資源に着目し、「桑園」の再生による景観の向上等を図りつつ、地域の特産物として開発した「桑茶」の原材料不足という課題にも的確に対応した。

団体名 桑ひろつ（池田町）	事業タイプ ソフト・ハード事業
連絡先 代表 山崎 嘉政	事業費 1,302,545円
	支援金額 1,014,000円